

# される上毛高原駅周辺

暗闇で美しく乱舞するホタルの光を觀賞しながら、水のせせらぎや風で揺れる葉音にも耳を澄ませてください。豊かな自然を全身で味わう贅沢な経験になるはず！



月夜野ホタルを守る会  
会長 原 卓也さん

ホタル鑑賞の最新情報や  
注意事項は町ホームページからご確認ください

ゲンジホタルとヘイケホタルの共演が見られる貴重な環境

北側(沢入沢)は、6月下旬~7月中旬が見頃です。

至 猿ヶ京温泉

水上IC  
至上牧・水上温泉



南側(古城沢)は、6月中旬~7月上旬が見頃です。

## 地域で守るホタルが舞う里

ホタルの幼虫はきれいな水でしか生きられないため、ホタルは「自然環境のバロメーター」とも呼ばれています。約70年前までは町内のどこでもホタルを見ることができましたが、社会の変化に伴い生息地が限られ、昭和40年代後半には月夜野地区のホタルが絶滅寸前となりました。そこから有志による保護活動が少しずつ始まり、賛同者が集まって昭和58年に「月夜野ホタルを守る会」が結成されました。以降、会のメンバーや地域住民が地道に保護と育成に取り組み、月夜野地区の小学校とも協力して、ホタルのえさであるカワニナの放流を行うなどの環境教育も継続して行っています。その成果が実り、毎年6月中旬から7月中旬にかけて、ホタルが舞う原風景が里に戻ってきました。現在は、会のメンバーの高齢化や減少により、次世代にこの環境を守り、伝えていくことが課題となっています。

# 人と自然の共生が実践

UDCみなかみ 開所  
**環境先進地域みなかみを舞台にした  
 自然と共生する新しい形のまちづくり**

「上越新幹線の開通に伴う上毛高原駅の開業以来、40年もの間、ずっと変わってこなかった駅前をなんとか元気にしたい」そのような地域の方々の想いから始まった取り組みである「アーバンデザインセンターみなかみ(UDCみなかみ)」が、今年4月に発足、この5月にオープニングセレモニーを実施しました。

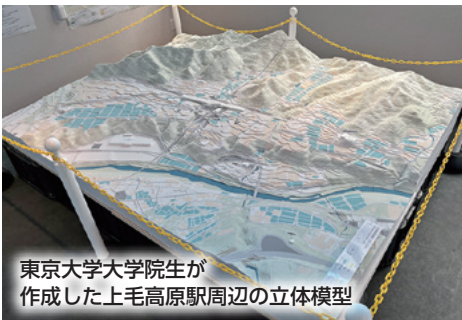
アーバンデザインセンターとは、公・民・学の各主体が連携し、まちの将来のために集まり考え語り合うまちづくりの組織であり、その拠点です。新幹線駅前というアクセスに恵まれた立地環境でありながら、地域が守り続けてきたホテルの生息環境、美しい山並みと田園風景など貴重な自然や風景がいまも残る上毛高原駅前。駅前エリア再編と自然再興を両立する地域に根ざしたまちづくりが「UDCみなかみ」ではじまります。



UDCみなかみ 外観



これまでのワークショップの様子



東京大学大学院生が作成した上毛高原駅周辺の立体模型



永野 真義さん  
 UDCみなかみ センター長  
 東京大学大学院工学系研究科  
 都市工学専攻都市デザイン研究室助教



UDCみなかみ  
 公式  
 ホームページ

自然体験やリトリートの玄関口である上毛高原駅

